



権名誠さん (作家)

プロフィール
 昭和19年東京生まれ。日本写真大学中退。昭和43年から55年まで流通業界月刊誌「ストアーズレポート」の編集長を務める。現在、「本の雑誌」の編集長。昭和55年春に小説「さらば国分寺書店のおばあさん」でベストセラーズ上位に入る。代表作は「わしらは怪しい探偵隊」など。「哀愁の町に霧が降るのだ」など。

水上50センチの視点だと風景がいつもと違う。カヌーの魅力です。

「同じ茶碗で飯を食ったり、互いのシャツをとりかえっこしたりして、ちっとも気を使わないですむ人」とは、菊池川にある通称「丸太村の主」石原さんの権名誠評。石原さんは、カヌーを通じて権名さんと知り合い、すっかり男惚れしてしまったそうです。TV、ラジオ、雑誌にと引っぱりだこの人気作家、権名さんですが、熊本には友人も多いとのこと、快くインタビューに応じて下さいました。一年の大半は旅に出られるそうですが、

「荒れた海」、極寒の地、「砂漠」の三つが、私の旅の大きなテーマなんです。荒れた海は、パタゴニアで、

極寒の地はシベリアで存分に味わって来ましたんで、次は砂漠を思っています。もちろん国内はあちこちと回っています。最近はまだ乗ったことのない乗り物を使つての旅に興味をもっています。先日は北海道の日高から十勝までの三百キロを馬で旅してきました。毎日乗っていると結構ケツが痛くなるもんですよ。

「昨年、菊池川にカヌーで来たんだか。」

「ここ四、五年、カヌーに凝っています。実はカヌーを教わったのが菊池出身の野田知佑さんという方なんです。この人こそ日本一のカヌーリストです。熊本の皆さんは、ぜひ知つて下さい。」

てて下さいよ。この方を通して菊池にカヌー仲間ができたんですが、彼らが菊池川のほとりにお互いが気軽にふれあえる場として丸太小屋をつくるという話を聞きつけまして、私もカミさんといっしょにかけつけたわけなんです。カヌーの魅力は目の高さが水上五十センチくらいの低い所にあるので、忘れられた道からというか、日常の視点とは全く違う場所から風景をみる事ができるんです。菊池川もまだまだ自然が多くていいコースですよ。カミさんと子供は球磨川もカヌーで下ってきました。

水上村に行ってみようかなってねええ。特に「水上村」へといったわけじゃないんですが、菊池川に行つたとき、とってもいい人たちとお会いしたんです。不言実行型というか、素朴というか胸にグツとくる男が多いんですよ。それで、もつと奥に入れば肥後もつこの典型に会えるんじゃないかと話していたんです。

「流通業界紙の編集長の経験もあるそうなんですが、県産品の流通問題について一言。」

うーん。難しい問題ですが、一言勝手に感想をいわせてもらおうと、熊本ってのは、関東以北の人にとってのはやはり遠い国なんです。遠い国ってのはロマンの国でもあるんです。



くまもの風 告知版

クマモトグリーンピック'86 前売券発売中

八月一日から十三日間、熊本市の水前寺江津湖公園で開かれる「クマモトグリーンピック'86」の前売券が発売中です。

〈入場料金〉

当日	団体	前売
大人 千二百円	千四百円	千円
高校生 千円	九百円	八百円
中学生 七百元	六百元	五百円
小学生 三百円	二百五十円	二百円
幼児		

前売券は、グアム旅行その他が当る抽選券も兼ねています。プレイガイドなどでお求めください。また、市役所や役場などでも取り扱っています。詳しいことは、都市緑化フェア事務局(☎〇九六―三三六―七二六)へお問い合わせください。(都市緑化フェア事務局)

地価評価に関する 無料相談会

四月は、地価公示普及月間です。地価公示とは、各地域で標準的な使われ方をしている土地(標準地)を選び、その標準地の適正な土地価格を公表することにより、土地を売買する際の土地価格の目安にしているものです。地価公示関係文書は、市町村役場で自由に閲覧できます。どうぞご利用ください。



第二十三回県身体障害者 体育大会参加者 募集

〈大会日程〉

競技	開催日	会場
陸上	五月(大自)	熊本市水前寺江津湖競技場
卓球	〃	県身体障害者福祉センター(体育館)
アテンド	〃	県身体障害者福祉センター(グラウンド)
水泳	〃	県立総合体育館(温水プール)

(雨天の場合は、五月二十五日(日)になります)

参加申し込み、その他詳しいことについては、県社会福祉事業団事務局(千八六二) 熊本市長領 二五五(☎〇九六―三三六―五三三)または各県福祉事務所へお問い合わせください。(障害福祉課)

あなたも「くまもの風」の愛読者になりませんか

「くまもの風」は、動きや情報をワイドに満載した県の広報誌です。県政の重要な施策をわかりやすく解説した「特集」、県民の中から選ばれたママさんが、行政マンに直撃インタビューする「ママさん特派員の県政レポート」、そして各界で活躍されている方に登場していただく「タイムタイム」の人と30分などバラエティに富み、親しみやすい内容となるよう工夫編集しています。

昨年度、個人的に欲しいといわれる方々のご要望におこたえて、郵送料添付の申込者に、直接送付のシステムを取り入れたところ、大変好評でした。これを受けて今年度も再度実施することとしました。

ご希望の方は、昭和六十一年度分の郵送料千四百四十円(一回二百四十円×六回)の切手を同封のうえ、四月十五日までに、千八六二熊本市水前寺六十八―熊本市広報課「くまもの風」係へお申し込みください。なお、部数に限りがありますので、お一人様一冊に限らせていただきます。(広報課)



編集後記

今回のカメラ漫遊記は、球磨郡水上村の市房ダム湖公園の桜。日本一の桜の里づくりが提唱されて以来、全国から訪問客が相次ぎ、また雑誌その他で紹介されたため、すっかり有名になりました。今年の桜も、きつとダム湖の周辺一帯に咲き乱れることでしょう。みなさん、お弁当でも持って、お出かけになりませんか。

二月五日から七日まで、第五十七回広報セミナーが開催され、全国の広報マンが熊本市に集まりました。この大会は、「地域づくりと広報」という新しいテーマを設定し、中央町の日本一の石段づくりを視察の日程に組み込んだり、「グルメの夕べ」を開催するなど、県下の市町村が一体となって取り組んだ大会となりました。参加者たちの「熊本は、さすがに燃えている」の評価は、大いに意を強くしたと思います。

表紙説明
 くまもと春の植木市の始まりは、今から四百年前にさかのぼります。ときの隈本城主、城親賢公が、産業の振興のため、京都の楽市にならって庭師を集め、市をたてたのがきっかけ。今では、「日本列島の春はくまもとの植木市から」といわれる程有名になり、規模も日本一を誇っています。

撮影の日も、県外からの団体客が多く、会場は、「緑」を求め人々にぎわっていました。モデルになっていたいたいた金融機関にお勧めの新美恵子さんも、お花が大好きとのこと、パイオのはしりといわれる肥後六花の一つ、肥後椿の前の撮影に、終始笑みが絶えませんでした。